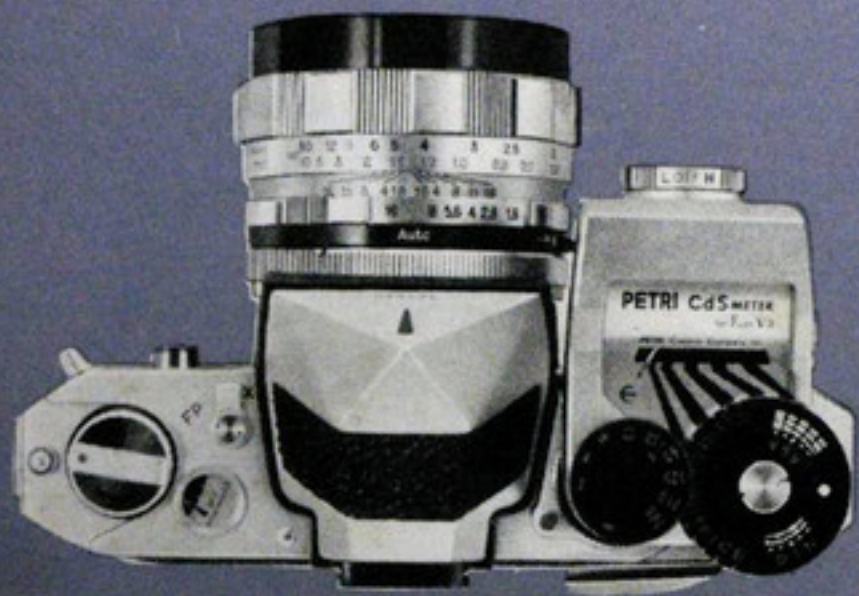


PETRI

V3

FLEX



INSTRUCTION BOOK

ペトリ V 3 フレックスをお買上げありがとうございました。

ペトリ V 3 フレックスは世界のトップカメラとして定評のあるペトリペンタ V 2 を、更に大きく前進させたペンタプリズム式一眼レフカメラのホープです。F 1.8 の大口径レンズに加えて、着脱が容易なペトリ CdS メーターによる露出計連動は、必ずやご満足いただけるものと信じております。

カメラをご使用になるまえに、本書をよくお読みになって、このカメラを十分に駆使してくださいますようお願い申し上げます。

目 次

| | |
|------------------|----|
| 主な性能 | 3 |
| 各部の名称 | 4 |
| フィルムに入れ方 | 6 |
| フィルムの巻上げ | 8 |
| 完全自動絞りと手動絞り | 9 |
| シャッター速度と絞りの合わせ方 | 10 |
| ピントの合わせ方 | 11 |
| 構え方 | 12 |
| ペトリ CdS メーターの使い方 | 13 |
| セルフタイマーの使い方 | 16 |
| シンクロフラッシュ撮影 | 17 |
| レンズの着脱と交換レンズ | 18 |
| 被写界深度の利用 | 20 |
| フィルムの出し方 | 21 |
| アクセサリ | 22 |

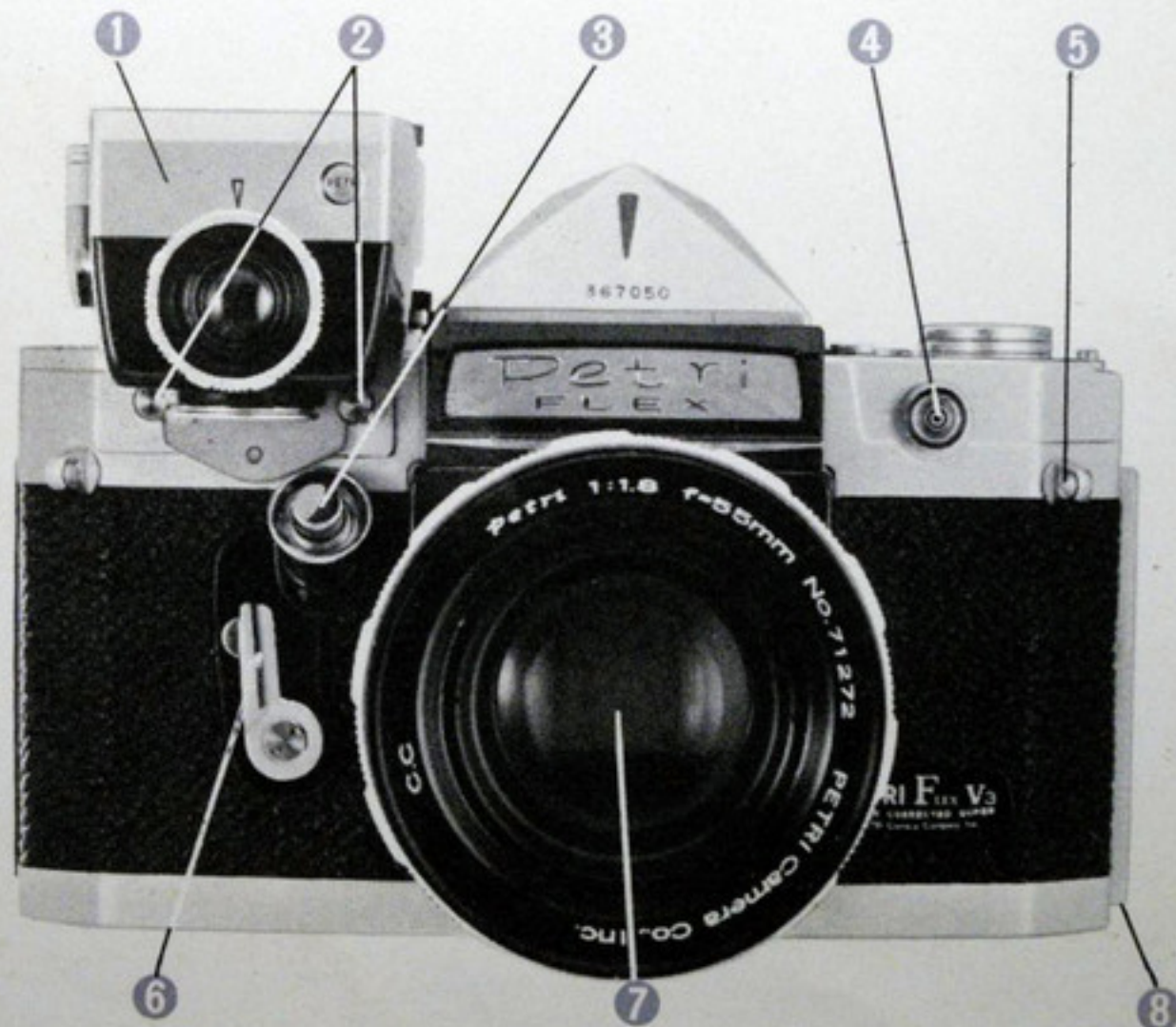
主な性能

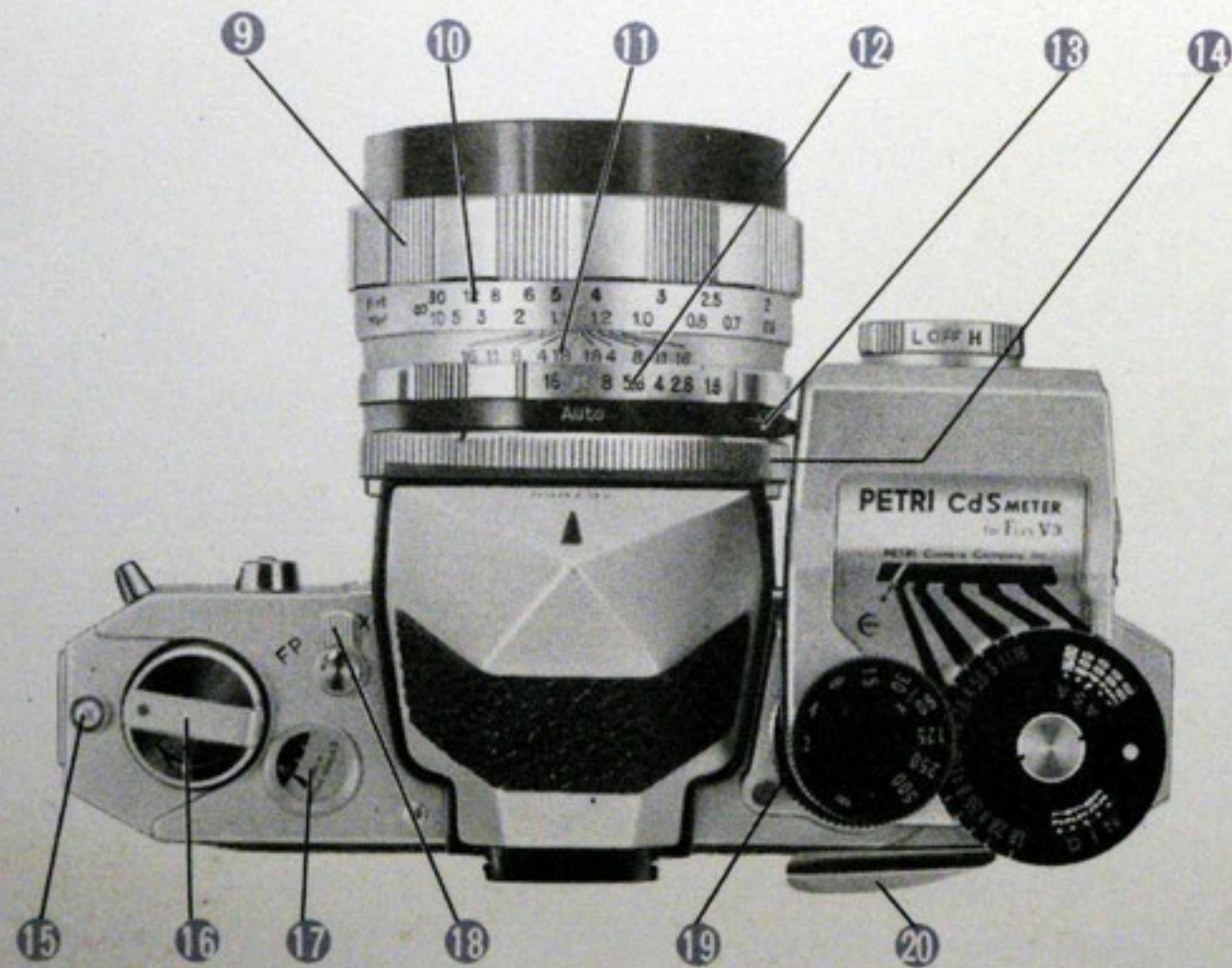
| | |
|--------|---|
| 形 式 | フォーカルプレン式完全自動絞り35ミリ一眼レフ |
| 使用フィルム | パトローネ入り35ミリフィルム (20・36枚撮り) |
| 標準レンズ | ペトリ F 1.8 55ミリ 4群6枚 コンビネーションコーティング 完全自動絞り レンズ交換可能 専用バヨネット |
| シャッター | フォーカルプレンシャッター 一軸不回転 B 2 4 8 15 30 60 125 250 500 (倍数系列) フィルム巻上同時セット ボデーリリース斜めボタン セルフタイマー内蔵 (約9秒) |
| シンクロ | FP・X切替式 J I S B型 |
| ファインダー | ペンタプリズム式 フレネルレンズ、コンデンサー 併用 0.9倍 直進ヘリコイドによる焦点調節 |
| 露出計 | クリップオンタイプCdSメーター シャッター連動 測光範囲ASA 100のときLV 2～LV 18 |
| フィルム巻上 | トURREバーによる一作動巻上 (余裕角12° 巻上角 180°) 順算式自動復元フィルム枚数計 |
| 寸法・重量 | 142×94×87ミリ (横×高×奥行) 850g |



各部の名称

- ① ペトリ CdS メーター
- ② メーター取付けピン
- ③ シャッターボタン
- ④ シンクロターミナル
- ⑤ 吊環
- ⑥ セルフタイマーレバー
- ⑦ ペトリ F 1.8 55ミリ
- ⑧ 裏蓋開閉レバー
- ⑨ ヘリコイドリング
- ⑩ 距離目盛

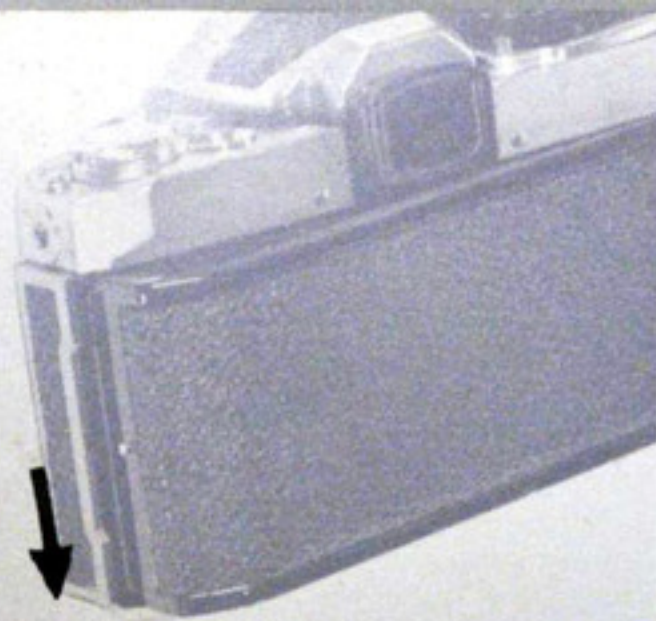




- ⑪被写界深度目盛
- ⑫絞り目盛(絞りリング)
- ⑬オートリング
- ⑭レンズ着脱リング
- ⑮アクセサリースュー取付けピン
- ⑯フィルム巻戻レクランク
- ⑰フィルム枚数計
- ⑱シンクロ接点切替レバー
- ⑲シャッターダイヤル
- ⑳フィルム巻上げレバー

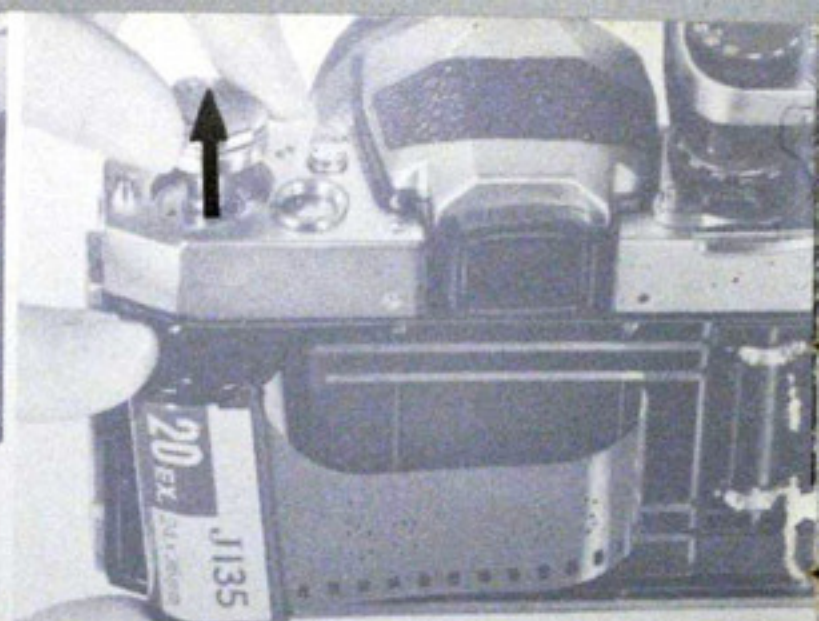
フィルムの入れ方

- フィルムはパトローネ入りの35ミリフィルムを使用します。
- フィルムの装てんは直射日光をさけ、日陰で行ってください。



1. 裏蓋をあける

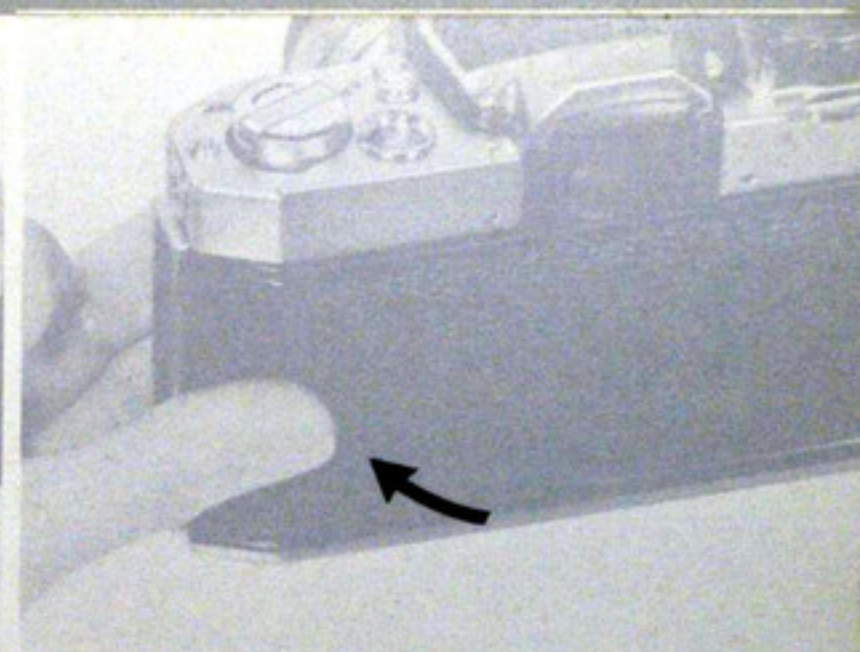
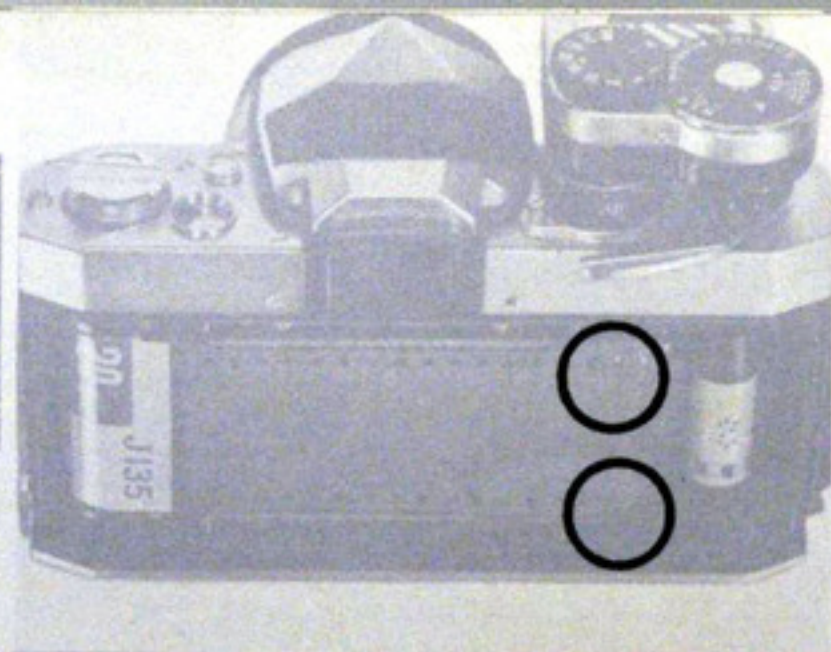
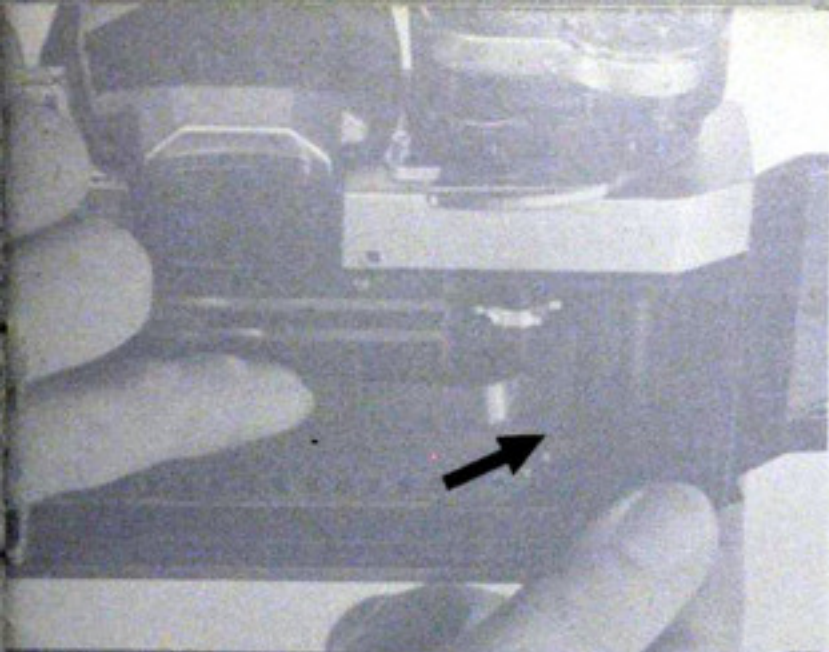
裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。



2. 巻戻しクランクを起して回す

巻戻しクランクをつまんで止まるところまで引出し、フィルムを納めます。

- フィルム装てん中のご注意
- 裏蓋中央の金属板（フィルムを圧えるための圧板）はキズをつけたり、スプリングの力を変えないように気をつけましょう。
 - シャッター膜には手をふれないでください。



3. フィルムの先端をスプールの溝にさしこむ

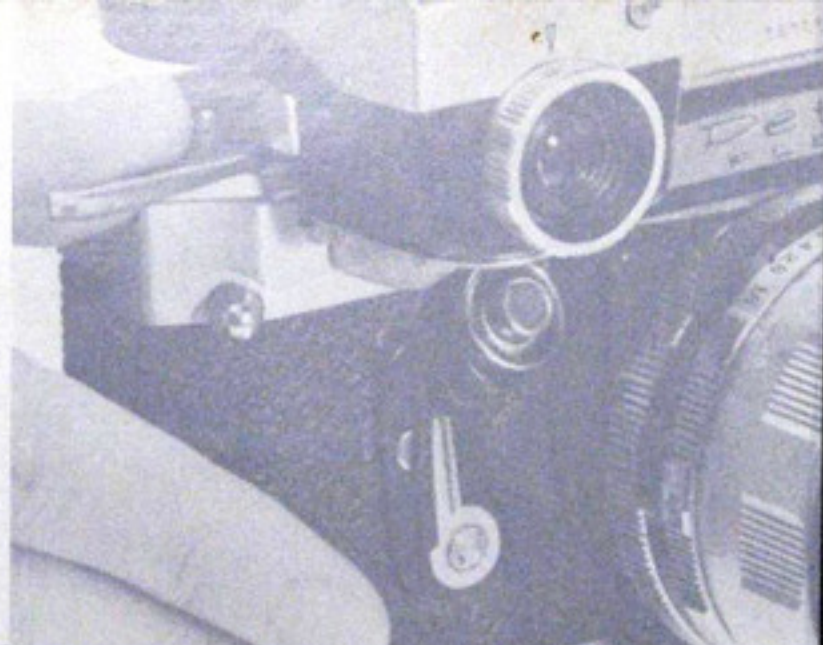
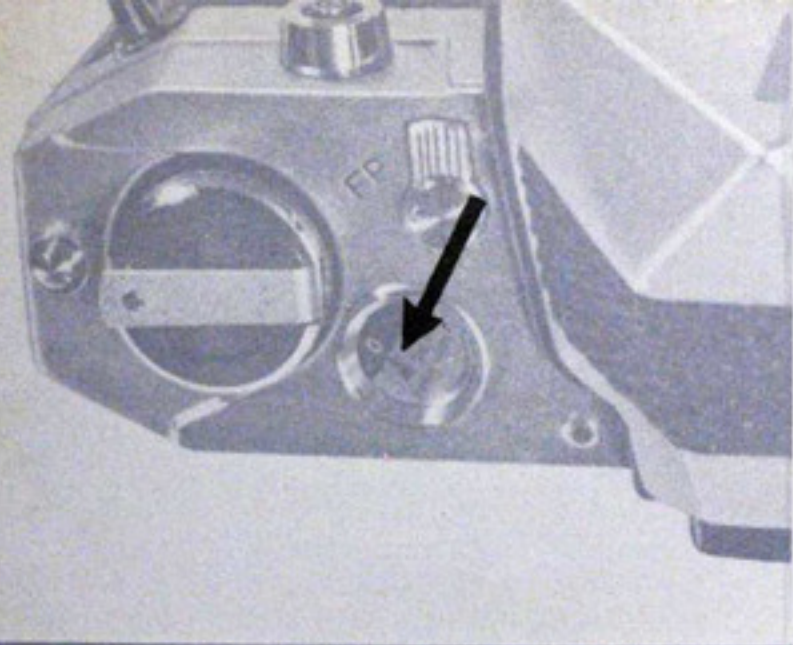
4. フィルムを少し巻取る

5. 裏蓋を閉める

フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、パーフォレーション（フィルムの爪孔）を溝の凸起にひっかけます。

巻取りスプールのつばに指をかけて回し、フィルムを少し巻取ります。パーフォレーションをスプロケットの歯にかみ合わせることが大切です。

巻戻しクランクを元に戻し、フィルムが正しく装てんされていることを確認した上で裏蓋を閉めます。裏蓋は閉じて押せばパチンと自動的に閉まります。

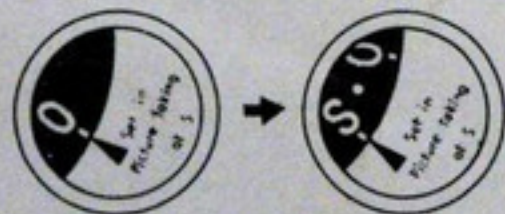


フィルムの巻上げ

ボデー上部の巻上げレバーに親指をかけて止まるところまで(180°)巻くと、フィルムが1コマ分巻上げられ、指を離すとレバーがスタート位置(12°)に戻ります。

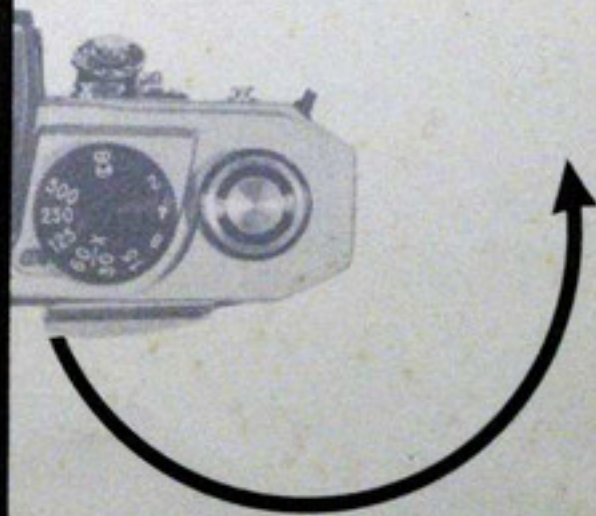
6. フィルム枚数計には手をふれる必要がない

フィルムの撮影枚数を知るための枚数計は自動的に0印(-3)に合っています。

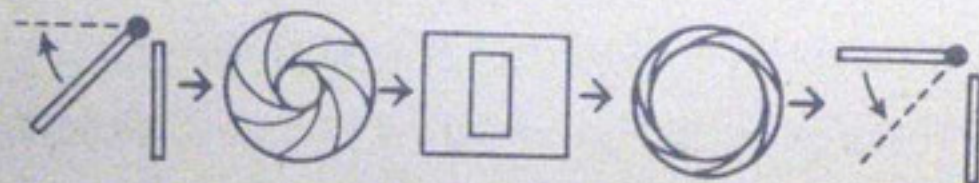


7. 空写しを2回行う

フィルム巻上げレバーを巻いて空シャッターを切る操作を2回くり返すと、枚数計はS印に合います。撮影直前に3回目の巻上げを行い、1枚目の撮影をします。



完全自動絞りと手動絞り



ペトリ V 3 の完全自動絞りは、次の順序で自動的に働きます。

- ①シャッターを切ると、ミラー（反射鏡）がはね上り、
- ②絞りが所定の F 値まで絞られ、
- ③シャッター膜が開いて露光します。
- ④再び絞りが開放に戻り、
- ⑤ミラーが元にもどります。

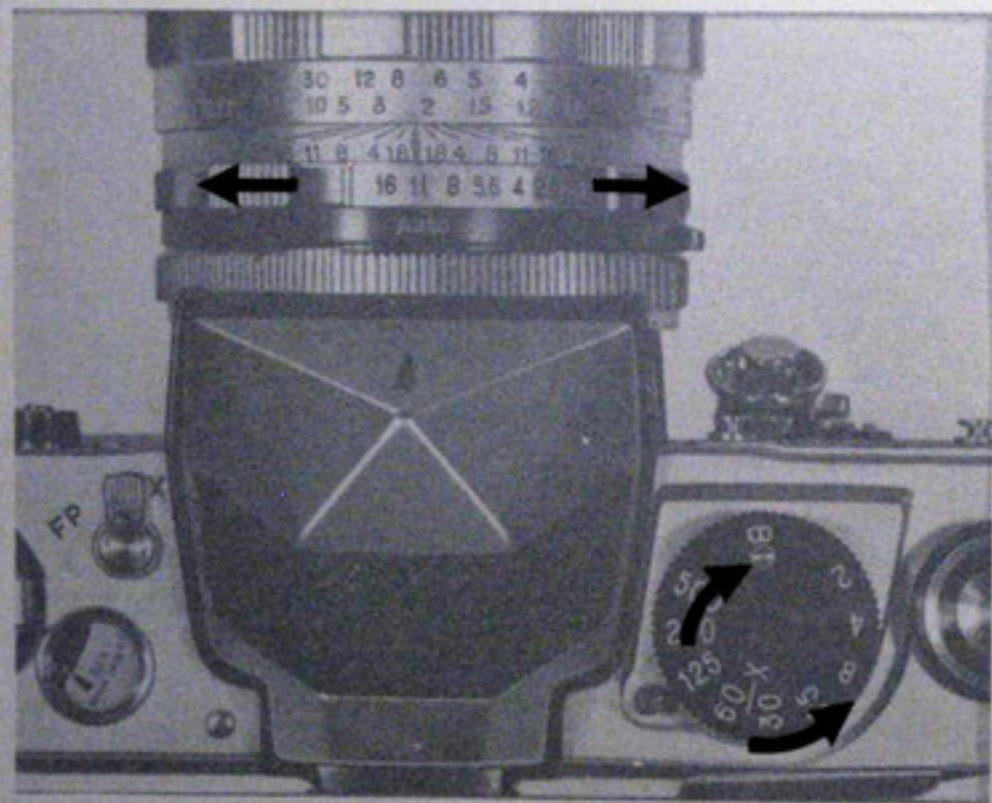
この一連の働きが全部自動的に瞬間の間に行われます。

●レンズ鏡胴のオートリング上のAutoの文字が真上にあるときは、完全自動絞りが働いています。（普段はこのままで撮影します。）

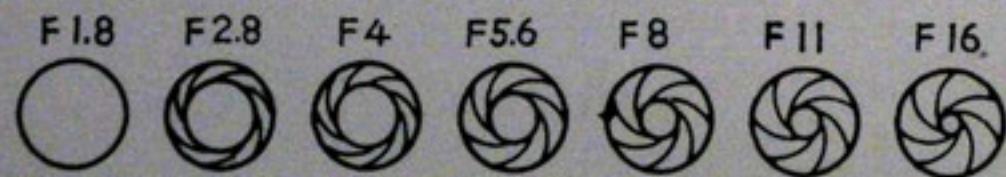
●オートリング上のM（Manual）の文字の矢印側にレバー（写真矢印）を持ってリングを回すと、自動絞りが解除され手動絞りとなります。手動絞りは実際に絞られたときの効果（被写界深度）を直接目でたしかめたいときなどに使います。



シャッター速度と絞りの合わせ方



- ボデー上部のシャッターダイヤルを右または左に回して、希望の速度を指標（緑色の▲印）に合わせます。（これはフィルム巻上げの前でも後でも構いません。）
- 赤字のXはストロボを使って撮影するときの速度（約 $\frac{1}{50}$ 秒）です。
- Bはバルブといって押している間中シャッターが開いています。
- シャッター速度は各目盛ごとクリックストップになっており、目盛の間は使えません。
- レンズ鏡胴にある絞りリングを回して希望の絞りのF値を指標に合わせます。
- シャッター速度と絞りは露出をきめる大切な要素ですから、被写体の明るさに応じて組み合わせを考えなければなりません。



ピントの合わせ方 — マイクロイメージ

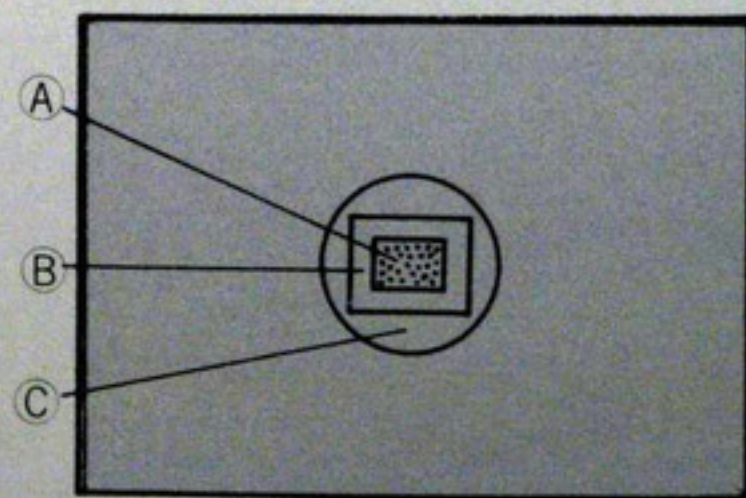
●ファインダーをのぞきながらヘリコイドリングを回すと、被写体がシャープに見える位置があります。ここがピントの合ったところ
です。

●ファインダーの中央にある四角い内側の部分の①は、ピントが少しでもズレていると急激に像がくずれてチラチラし、ピントが合うとシャープな像を結びます。これは微小なプリズム群を組合わせたもので、マイクロイメージといい、ここでピントを合わせれば、正確迅速に調節できます。

●マイクロイメージのすぐ外側にある四角い部分②は透明部で、マイクロイメージと比較しやすいようになっており、更にその外側の円形③は被写界深度（後掲） — バックのボ

ケ具合などを見るための部分です。

●画面全体はフレネルレンズによって、隅々まで明るく、暗い被写体でも構図を決めやすいように設計されております。



構 え 方

●右手はしっかりカメラのボデーを持ちながら、人差指が斜め30度のシャッターボタンにふれ、いつでもシャッターが切れる体勢をとり、左手は下からレンズの鏡胴を支えるよう

にヘリコイドリングを保持し、ピントを調節します。

●カメラを安定させるために、鼻、ヒタイなど顔の一部にカメラの背部を密着させます。



$\frac{1}{30}$ 秒以下のスローシャッターをご使用の際は、カメラぶれを防ぐために三脚をお使いください。

ペトリCdSメーターの使い方

クリップオンタイプのペトリCdSメーターは、CdS（硫化カドミウム）を使い水銀電池を電源とした高低切替式の高性能電気露出計で、ペトリV3に取付ければ、シャッター速度に連動して迅速に適正露出が求められます。

性能

ASA露光指数系列

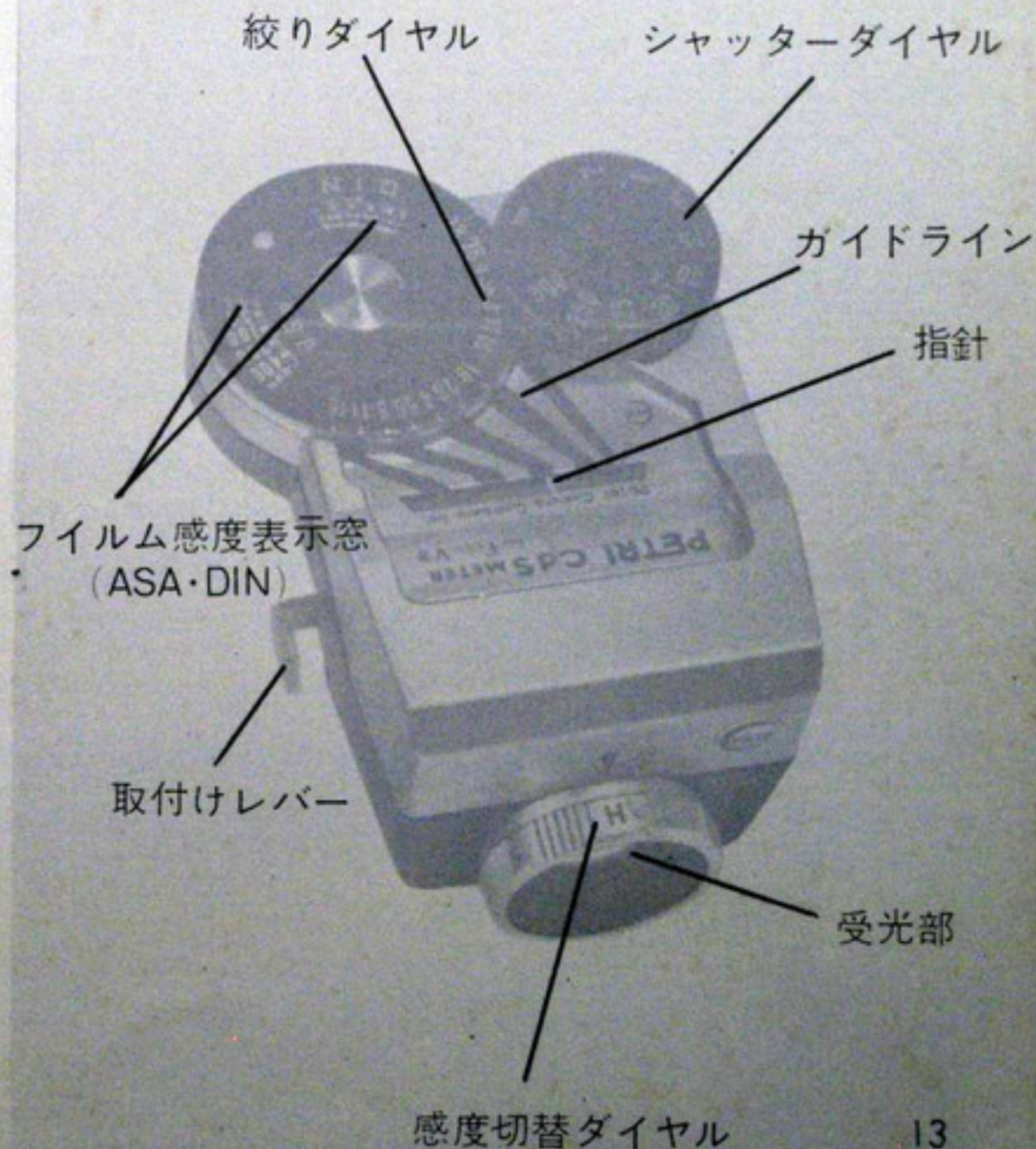
6、10、25、・(32)、50、・(64)、100、200、
400、800、1600、3200

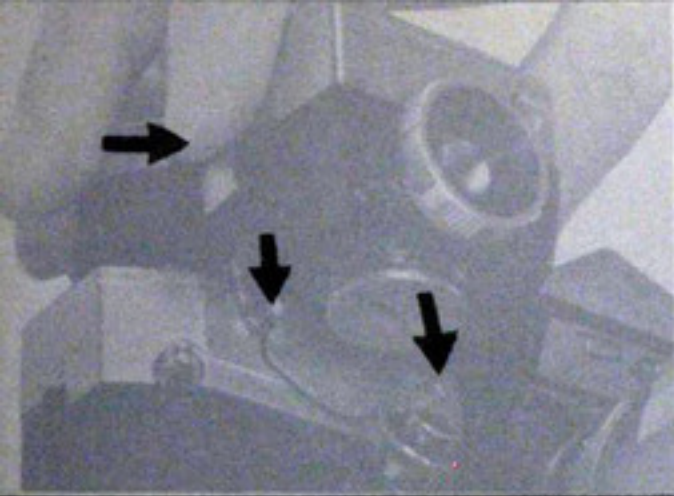
DIN露光指数系列

9、11、15、・(16)、18、・(19)、21、24、27、
30、33、36

測光範囲（ASA100のフィルム使用のとき）

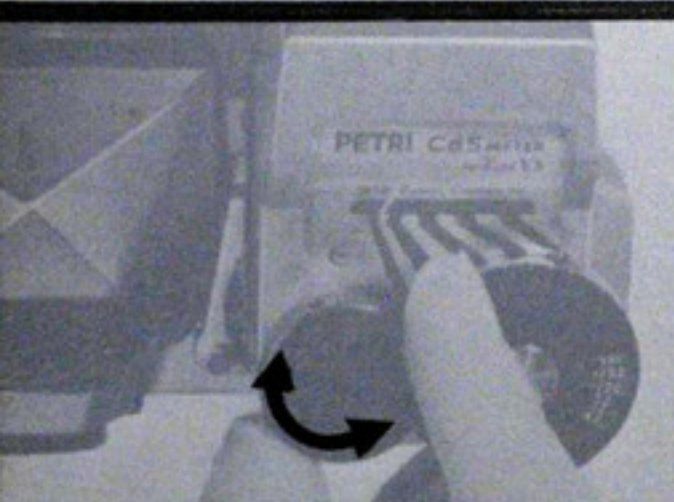
L V（ライトバリュー）2～L V18



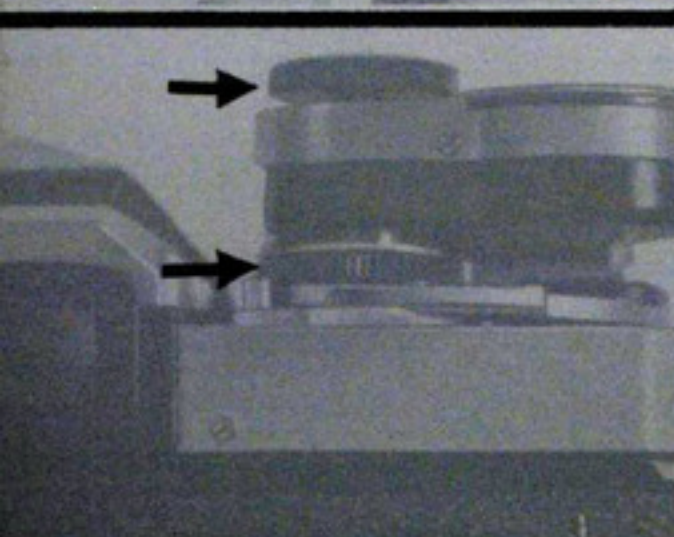


メーターの取付け方

①メーター側面の取付けレバーを押しながらメーターの取付け金具をカメラ前面の取付けピンに差しこみ、手を離せば固定します。



②次にメーターのシャッターダイヤルを左右に回して、メーター底部のカップラーをカメラのシャッターダイヤル上にあるピンと結合させれば、カメラとメーターの速度が合います。

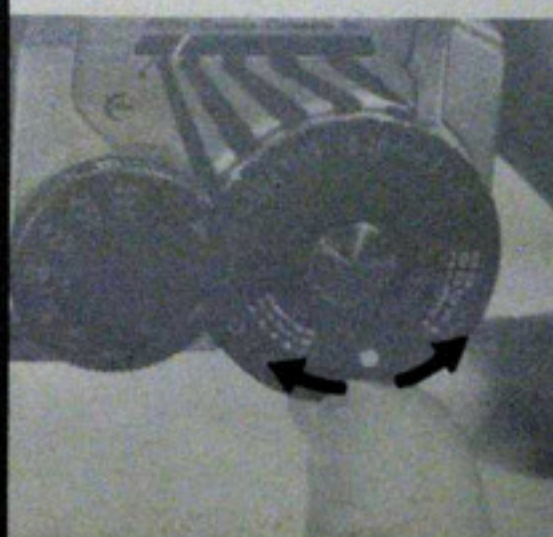


③メーターのダイヤルを回してみて、カメラのシャッターダイヤルとスムーズに連動すれば、完全に装着されたと判断できます。

取りはずしは、取付けレバーを押しながらメーターを引っぱり上げれば、はずれます。

操 作

1. **フィルム感度を合わせる** メーターの絞りダイヤル上の凸起に爪をかけて回し、使用フィルムの感度をフィルム感度表示窓で合わせておきます。例えばSSフィルムならASA窓の100に合わせてます。



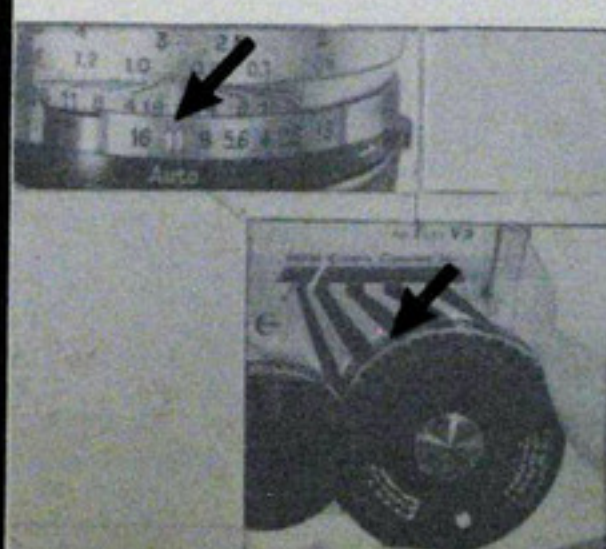
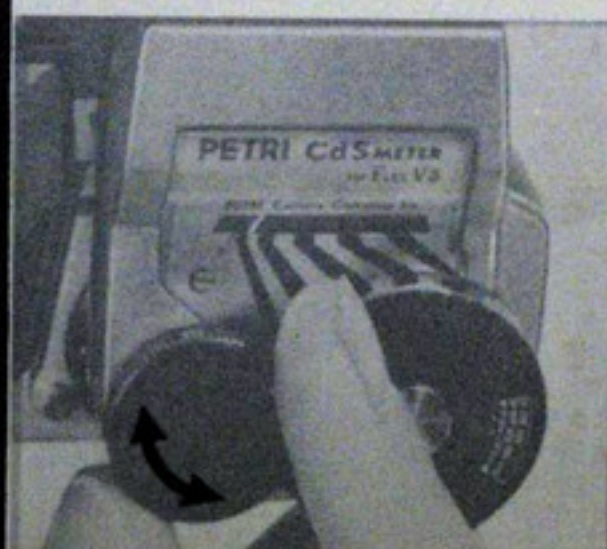
2. メーターの感度切替ダイヤルを合わせる

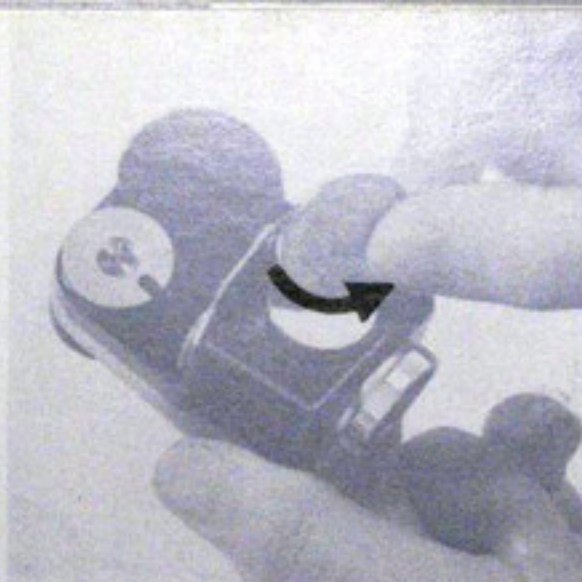
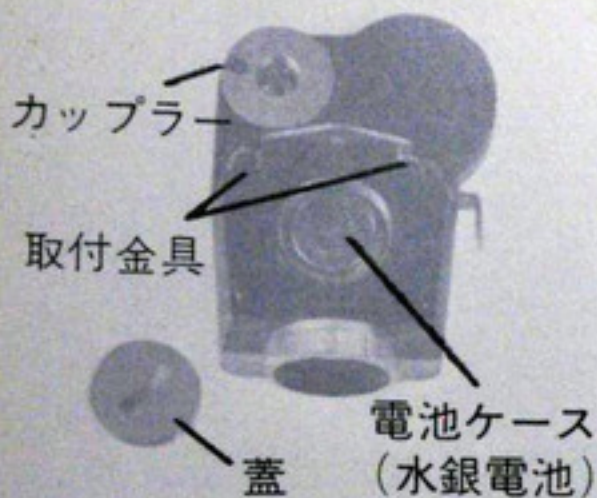
普通の明るい場所ならHに合わせ、相当暗い場合だけLに合わせます。(カメラを使わないときは、必ずOFFに戻して、水銀電池をムダに使わないようにします。)

3. シャッター速度をきめる　メーターのシャッターダイヤルを回して希望の速度を側面の指標（赤線）に合わせます。この場合、戸外なら $\frac{1}{25}$ 秒、明るい室内なら $\frac{1}{30}$ 秒というように、明るいときは速いシャッター、暗いときは遅いシャッターをえらびます。

4. 適正絞りを読みとる　カメラを被写体に向け、メーターの指針が示す絞りのF値をガイドラインにそって読みとり、それと同じ値にレンズの絞りを調節すれば、適正露出が得られます。この場合、感度切替ダイヤルがHのときは白い数値、Lのときは黄色の数値で合わせなければなりません。

5. 絞りから先にきめたい場合　メーターのシャッターダイヤルを回して、希望の絞りを指針に合わせ、そのときのシャッター速度のまま撮影すれば適正露出を得られます。シャッター速度は中間位置では使えませんから、もしクリック位置をずれるときは、近い方の目盛に正しく合わせ直してください。



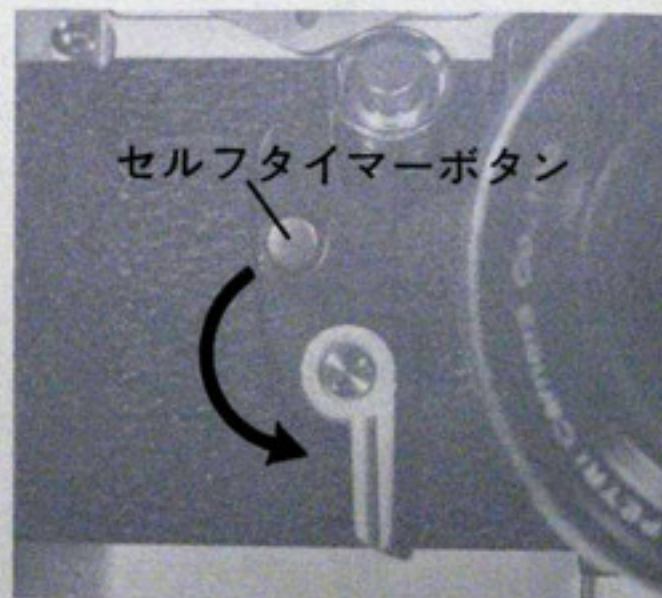


水銀電池の交換

メーターの電源である水銀電池は、使用状態にもよりますが、2年位使いますと消耗して来ますから、新しいものと交換しましょう。

メーター下部の電池ケースの蓋の凹みに10円硬貨を当てて、時計方向と反対に回すとねじがはずれ、中の電池をとり出せます。ここで新しい水銀電池（ナショナルMD型）を、+のマークのある方を上にして入れ、蓋を閉めます。この場合電池の極は必ず+が蓋の+側と合うように入れなければなりません。

セルフタイマーの使い方



- セルフタイマーレバーを、上図矢印の方向へ180度押し下げ、セルフタイマーボタンを押せば約9秒後にシャッターが切れます。
- セットはフィルムの巻上げ前でも後でも構いません。途中位置でもセットできます。
- B（バルブ）以外の各速度に使えます。

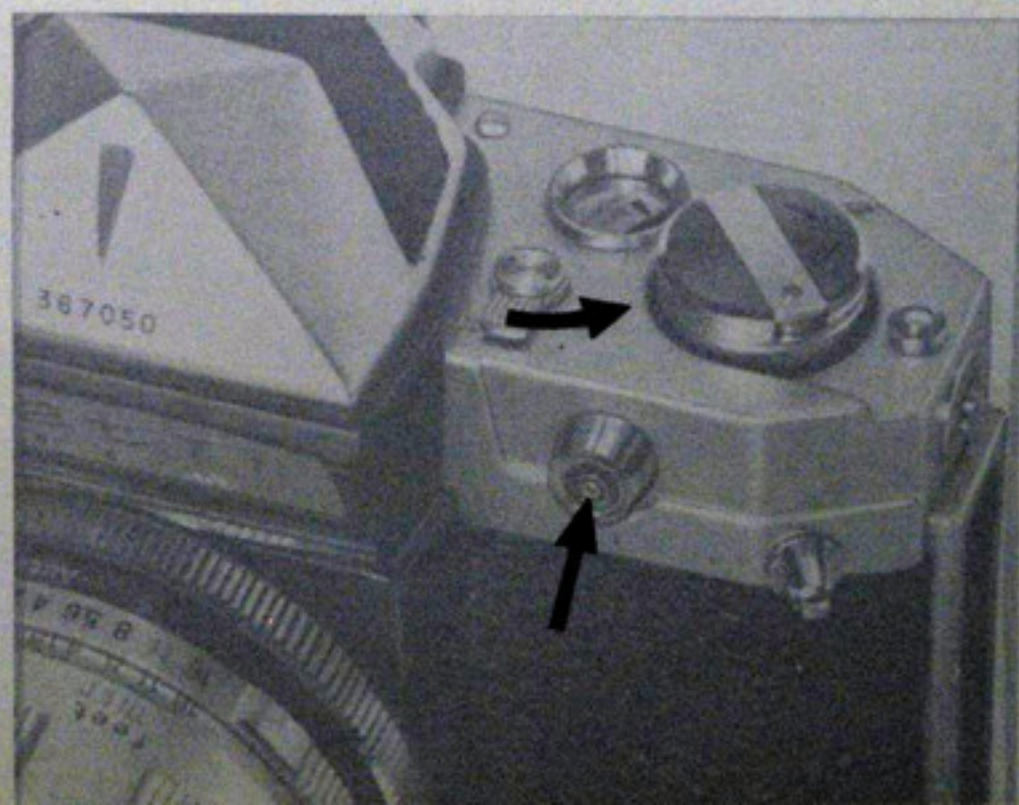
シンクロフラッシュ撮影

夜間や暗い室内でスナップしたいときは、閃光電球の発光とシャッターの開口を同調させる、シンクロ撮影をおすすめします。

- 用意するものはフラッシュガン（発光器）と閃光電球です。ガンをアクセサリシュー（アクセサリの項参照）に取付け、コードの先端をシンクロターミナルに接続します。
- 使用する閃光電球がF級、M級またはストロボの場合はシンクロ切替レバーをXに合わせ、FP級の場合はFPに合わせます。
- ここで右記の使用表によりシャッター速度をきめます。
- 絞りの決定は、光源——被写体間の距離によって左右されますが、これは電球の外箱についている露出表によってきめてください。

使用表

| 切替レバー | $\frac{1}{500}$ | $\frac{1}{250}$ | $\frac{1}{125}$ | $\frac{1}{60}$ | X | $\frac{1}{30}$ | $\frac{1}{15}$ | $\frac{1}{8}$ | $\frac{1}{4}$ | $\frac{1}{2}$ | B |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|---|----------------|----------------|---------------|---------------|---------------|---|
| F P | FP級(ネジ込式) | | | | | | | | | | |
| | FP級(さし込式) | | | | | | | | | | |
| X | | | | | | | F級 | | | | |
| | | | | | | | M級 | | | | |
| | | | | | | | ストロボ | | | | |



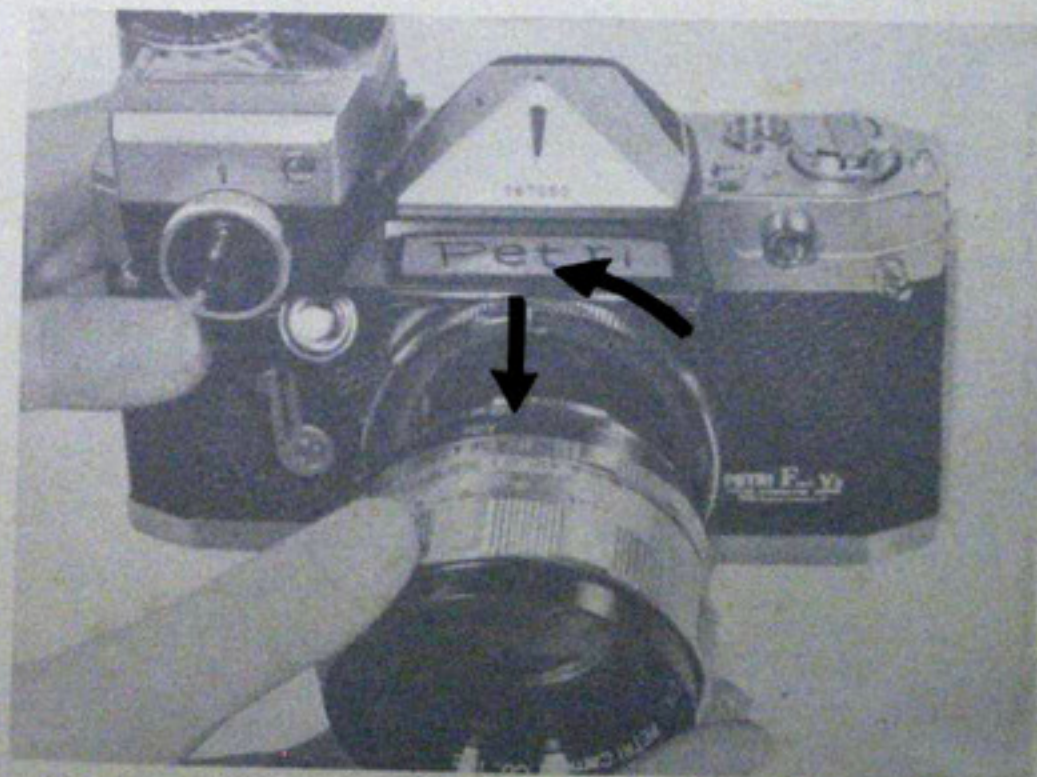
レンズの着脱と交換レンズ

鏡胴基部にあるレンズ着脱リングを左へ回して指標（赤線）を真上にもってくれば、そのままレンズがはずれます。装着はこの逆の操作をすればよいのです。つまりレンズのバヨネットについている赤ポチを真上にして、カメラの着脱リングの赤線と合わせて差し込み、着脱リングを右へ回してしめつけます。

交換レンズを取付ける場合も、35ミリ広角と135ミリ望遠のペトリ交換レンズ（いずれも完全自動絞り）の場合は同じ操作で簡単に装着されます。また、その他のネジ込式のペトリ交換レンズをご使用の際は、アダプターリング（カメラの箱に同封）を交換レンズにねじこんでバヨネットとした上でボデーに取付けなければなりません。

ペトリレンズによる写角の変化 ⇨

アダプターリング





35mm (広角)



135mm (望遠)



180mm (望遠)



500mm (超望遠)

ペトリ交換レンズ群

新種ガラスを採用し、カラープロパーコーティングされた高解像力のペトリ交換レンズが各種用意されています。これらを使い分けることによって、撮影範囲を一層広げることができます。

ペトリF3.5 35ミリ (広角) ￥15,000

ペトリF3.5 135ミリ (望遠) ￥19,000

(以上完全自動絞り)

ペトリF3.5 105ミリ (長焦点) ￥12,000

ペトリF3.5 180ミリ (望遠) ￥22,000

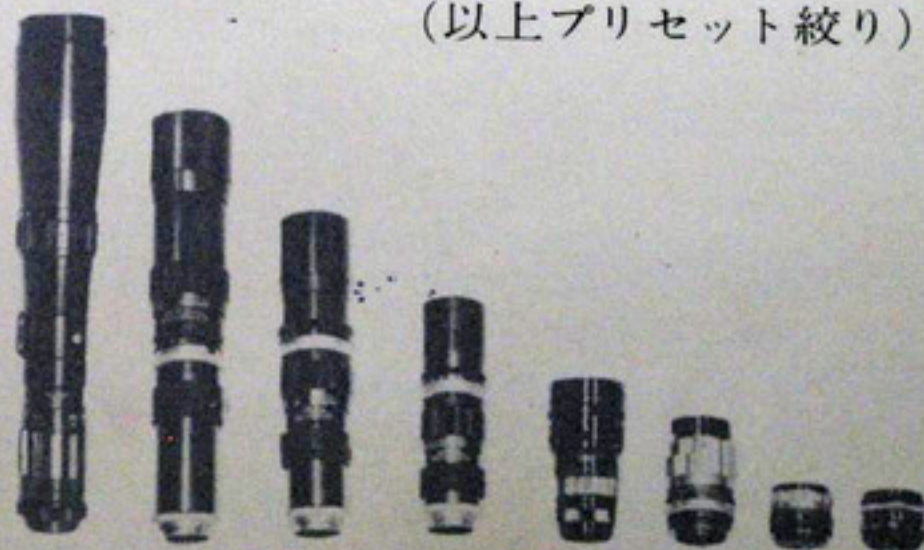
ペトリF4 200ミリ (望遠) ￥18,000

ペトリF5.5 300ミリ (望遠) ￥24,800

ペトリF6.3 400ミリ (望遠) ￥28,400

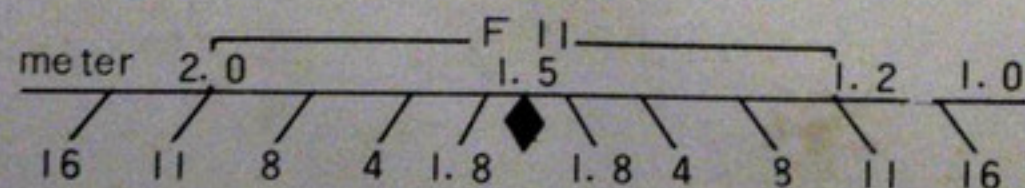
ペトリF8 500ミリ (超望遠) ￥45,000

(以上プリセット絞り)



被写界深度の利用

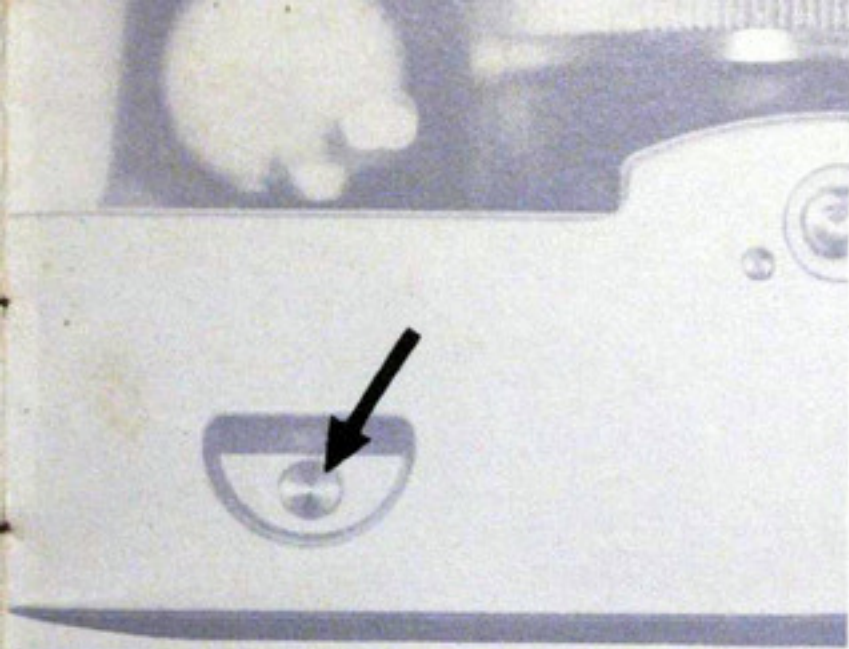
カメラの距離目盛に対応して刻まれている数字は被写界深度を示すものです。被写界深度とは1点にピントを合わせたとき、その前後に生じる鮮明に写る範囲のことですが、これは小絞りにする程、また遠距離になる程深くなる性質をもっています。下図はピントを1.5メートルに合わせた場合ですが、例えばF11に絞ったときは約1.3メートルから1.8メートルの間が鮮明に写ると判断されます。深度目盛のF1.8の位置にある赤い線は赤外撮影の場合の指標で、一たんピントを合わせた後距離目盛をここまでずらすことを指示しています。(赤外焦点)



ペトリ F1.8 55mm 被写界深度表

(メートル)

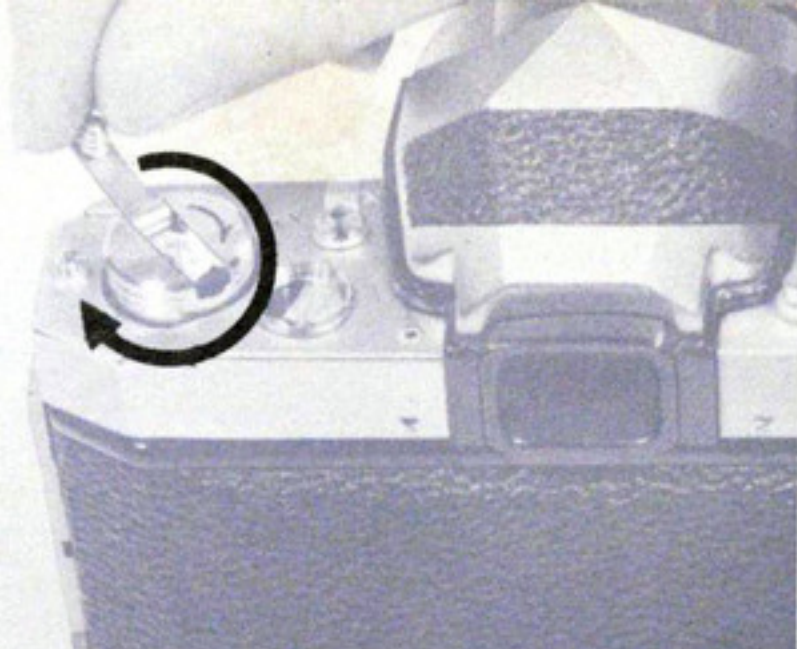
| FNo. meter | 1.8 | 2.8 | 4 | 5.6 | 8 | 11 | 16 |
|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 0.6 | 0.593 0.607 | 0.589 0.611 | 0.585 0.615 | 0.579 0.622 | 0.572 0.630 | 0.561 0.644 | 0.544 0.668 |
| 0.7 | 0.691 0.710 | 0.685 0.715 | 0.679 0.722 | 0.671 0.731 | 0.659 0.745 | 0.647 0.762 | 0.623 0.797 |
| 0.8 | 0.788 0.813 | 0.780 0.820 | 0.772 0.829 | 0.762 0.841 | 0.747 0.860 | 0.730 0.883 | 0.701 0.931 |
| 1.0 | 0.980 1.021 | 0.969 1.032 | 0.957 1.046 | 0.941 1.066 | 0.917 1.098 | 0.892 1.136 | 0.848 1.248 |
| 1.2 | 1.172 1.230 | 1.156 1.247 | 1.138 1.268 | 1.115 1.298 | 1.082 1.346 | 1.047 1.404 | 0.986 1.532 |
| 1.5 | 1.455 1.548 | 1.431 1.575 | 1.403 1.610 | 1.368 1.658 | 1.319 1.737 | 1.267 1.836 | 1.177 2.065 |
| 2.0 | 1.920 2.087 | 1.878 2.137 | 1.831 2.203 | 1.771 2.296 | 1.688 2.451 | 1.603 2.655 | 1.461 3.167 |
| 3.0 | 2.823 3.201 | 2.733 3.325 | 2.632 3.486 | 2.600 3.728 | 2.345 4.611 | 2.183 4.792 | 1.925 6.790 |
| 5.0 | 4.524 5.589 | 4.295 5.980 | 4.050 6.529 | 3.765 7.440 | 3.404 9.408 | 3.071 13.437 | 2.581 79.491 |
| 10.0 | 8.252 12.689 | 7.519 14.920 | 6.797 18.910 | 6.025 29.377 | 5.148 17.361 | 4.419 ∞ | 3.466 ∞ |
| ∞ | 47.192 ∞ | 30.321 ∞ | 21.222 ∞ | 15.160 ∞ | 10.611 ∞ | 7.918 ∞ | 5.305 ∞ |



1. リターンボタンを押す

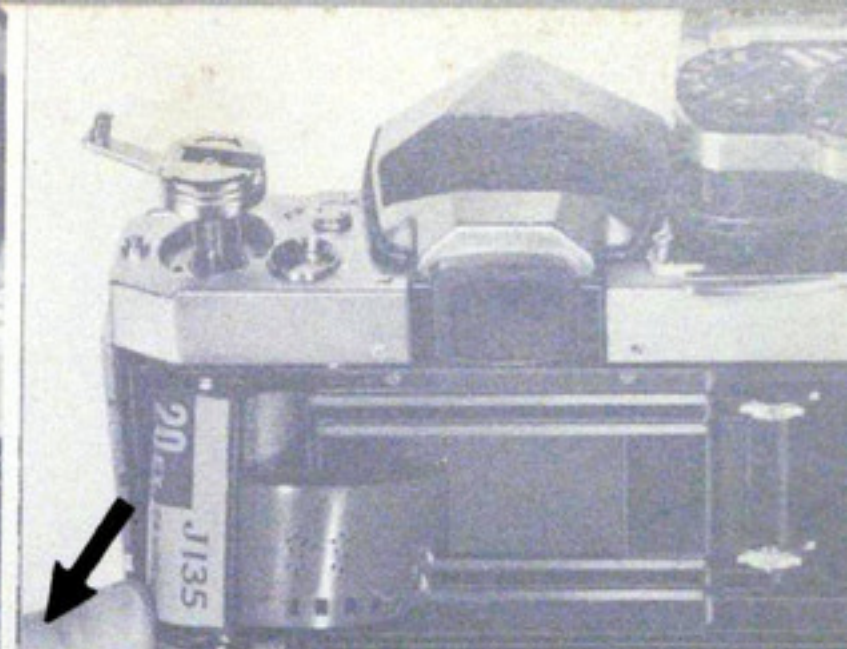
フィルムを全部撮影し終わったらもとのパトローネに巻き戻さなければなりません。まず、カメラ底部にあるリターンボタンを押します。

フィルムの出し方



2. 巻戻しクランクを引き出す

リターンボタンを押したまま、巻戻しクランクを起して矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻き戻されてゆきます。



3. フィルムを取出す

巻戻しの手ごたえが急に軽くなったら、完全に巻き戻されたと判断されますから、裏蓋を開き、巻戻しクランクを引き出して、フィルムを取出します。

アクセサリ

ペンタV3には各種の専用アクセサリが用意されております。撮影をより楽しくするために、ご利用くださるようおすすめします。

ペトリフード



軽合金使用の丸型、止ネジ式レンズフードで着脱が確実です。内面反射防止が完全ですから、レンズの写角以外からの有害な乱反射を防ぎ、美しい写真が写せます。丸型ですから取付けの角度に気を配る必要もありません。丈夫な革ケースに入っています。

¥ 1,000

ペトリフィルター



Y1 (淡黄)、Y2 (黄)、
YA3 (橙)、R1 (赤)、
PO1 (緑) 各¥ 1,200
H-UV (紫外線カット用)
¥ 1,400

カラー用

W4 (温調)、C4 (冷調)
C8 (閃光電球用)
C12 (写真電球用)
各¥1,400

アクセサリースュー



カメラの側面のネジ孔に止めて、巻戻しクランクの上に固定できる専用アクセサリースューで、フラッシュガンなどを取付けるのに用います。

取付が簡便で安定性がよく堅牢ですから、是非1台に1個ご用意ください。

¥ 500

ペトリ接写リング



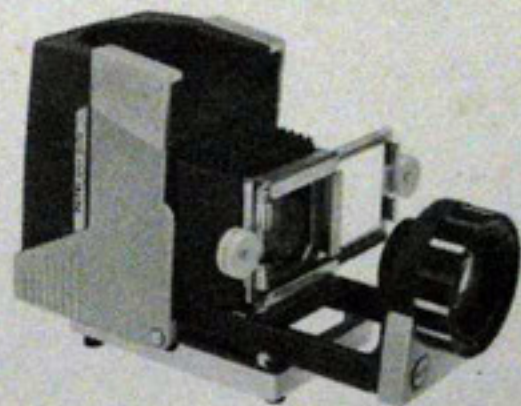
レンズとボデーの間に接写リングをはめこみますと、小物体の複写や文献などの複写ができます。

接写リングには1号、2号、3号とそれぞれ厚さのちがう3種類があり、いろいろに組み合わせれば、あらゆるサイズの接写ができます。

1号¥360 2号¥400 3号¥500

マウントリング ¥700

ペトリスポットスライド



折畳み式の超小型スライド映写機です。ペトリV3で撮影されたカラーフィルムを、大きく映写しておたのしみください。

¥ 5,900



ペトリカメラ株式会社

本社・工場 東京都足立区梅島町 1
東京センター 東京都千代田区九段 2-5
大阪センター 大阪市南区鰻谷西之町 11-4
名古屋センター 名古屋市中区鶴重町 1-5
九州センター 福岡市片上居町 13-2
ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・ヨーロッパ
ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・オキナワ